令和７年度北海道倶知安高等学校　第１回　学校運営協議会　報告書

１　目　的　　本校は、後志管内羊蹄山麓にて地域に根ざす伝統校である。グローバルな地域の教育資源を活用しながら、広い視野で地域の課題を見つけ、その課題を解決するための方策を協働的に検討し、実践的な教育活動を通して人材の育成を図ることを目的とする。

２　日　時　令和7年5月２８日（水）１４：００～１５：３０

３　場　所　北海道倶知安高等学校　会議室

４　出席者　《学校運営協議会委員》敬称略

古　谷　眞　司〔地域住民〕
木　村　聖　子〔地域住民〕（欠席）
吉　田　　聡〔地域住民〕
高　田　直　紀〔保護者〕（欠席）
濱　﨑　順　平〔運営に資する者〕
平　野　雄　二〔行政機関の職員〕
中　村　直　也〔行政機関の職員〕
白　川　博　順〔地域住民〕（欠席）
遠　藤　　正〔学識経験者〕

《校長及び教職員》

佐々木　真　一〔校長〕
宮　澤　正　行〔教頭〕
瀬　尾　武　嗣〔教諭・産学連携〕
川　本　賀　信〔教諭・教育連携〕

５　議　事

（１）委嘱状の手交

（２）自己紹介

（３）説明

①学校運営会議　設立の目的・組織体制〔学校長〕

②令和７年度学校経営方針〔学校長〕

③産学連携…ヘラルドプロジェクト〔瀬尾教諭〕

④教育連携…ボランティア連携〔川本教諭〕

（４）熟議　テーマ「活動計画を充実させるために」

６　熟議内容

・グローバルとローカルが合わさった特異な地域（冬場の人口の３０％が外国の方）で、幼小中高の連携が重要になる（倶知安プラン）。本協議会を実のあるにするには、より多くの地域の方々が支援する「地域学校協働本部」のような体制づくりが必要である。

・本校の柱として、高校 DX とグローバルが挙げられる。これと、探究活動との結びつきを具体的に設定する必要がある。例えば、観光と統計の視点を持った取組などが挙げられる。

・本校は、倶知安町だけではなく羊蹄山麓地域の高校のため、各町村への働きかけが重要だと思われる。

・高校 DX と人材育成との結び付け方は、難しい面があるが早急に取り組む必要がある。探究活動の主流は社会課題の解決にある。その解決手段として高校 DX がある。高校生が取り組み易い分野から取り組ませると良い。

・本校の生徒に、地域課題に興味を持たせるのは難しい面もあるが、テーマ設定の工夫などで興味を持たせることは可能だと思われる。

・生徒が地域への興味関心を持てないことは課題である。この最先端の地域の魅力や、この魅力ある地域の課題を具体的に感じ取って欲しい。まず、魅力や課題に触れさせることが大切だと思われる。

・中学校の総合的な探究の時間は、主に「生き方」指導が主になっている。働くことの意味を教えることや、仕事場で大人が活躍する姿を見る機会の提供などである。

・観光協会で行われていることの中に、探究活動や地域連携のヒントや協働で取り組めることがあると思われる。観光協会の人材不足や英語交流においては、高校生の問題解決学習と繋がりやすいと思われる。